



2015年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2014年10月
大阪ガス株式会社

1. 15.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

15.3期第2四半期決算のポイント

対前年同期比較

■ 概況

売上高	ガス販売量は減少したものの、LNG価格の上昇に伴い、原料費調整制度に基づくガス販売単価が上昇したことなどから、 前年比4.1%(273億円)増収の6,976億円。
経常利益	スライド差損が解消し差益に転じた(-96→+71億円)ことによるガス粗利益の増加などにより、 前年比21.3%(101億円)増益の578億円。
四半期純利益	投資有価証券売却益の計上等により、 前年比50.1%(158億円)増益の475億円。

■ ガス販売量(個別)

家庭用	前年比0.6%(5百万m³)減少の785百万m³。
商・公・医療用	需要開発による増加はあるものの、夏期の気温が前年より低く推移し、冷房需要が減少したことなどにより、 前年比5.7%(44百万m³)減少の730百万m³。
工業用	お客さま設備の稼働が減少したことや、一部IPPの契約満了に伴い、大口ガス供給→自家使用にカウント方法を変更したことなどにより、 前年比3.4%(72百万m³)減少の2,060百万m³。

15.3期第2四半期決算のポイント II

対見通し比較

■ 概況

売上高	主にガス売上高が減少したことなどから、 見通しを1.7%(123億円)下回る6,976億円。
経常利益	スライド差益の拡大(+12→+71億円)によるガス粗利益の増加や、 費用の減少などにより、 見通しを19.3%(93億円)上回る578億円。

■ ガス販売量(個別)

家庭用	春先の水温が想定より高く推移し、給湯需要が減少したことなどにより、 見通しを1.5%(12百万m³)下回る785百万m³。
商・公・医療用	夏期の気温が想定より低く推移し、冷房需要が減少したことなどにより、 見通しを1.3%(10百万m³)下回る730百万m³。
工業用	お客さま設備の稼動減少などにより、 見通しを2.8%(60百万m³)下回る2,060百万m³。

■ 投資など

新規事業拡大 投資	海外上流事業、国内電力事業の意思決定済案件を中心に、 上半期の 投資実行額は計390億円 (年間計画額の35%)。
--------------	---

15.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³	A. 15.3期 2Q	B. 14.3期 2Q	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	C. 15.3期 2Q見通し ^{※1}	見通し比 (A-C)/C
お客さま数(千件)	7,158	7,101	+57	+0.8%	7,139	+0.3%
新設工事件数(千件)	45	40	+6	+14.3%	39	+17.7%
家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	22.2	22.5	-0.3	-1.1%	22.6	-1.6%
個別						
家庭用	785	789	-5	-0.6%	797	-1.5%
商・公・医療用	730	774	-44	-5.7%	739	-1.3%
工業用	2,060	2,132	-72	-3.4%	2,120	-2.8%
業務用計	2,790	2,906	-117	-4.0%	2,859	-2.4%
他ガス事業者向け	221	220	+1	+0.5%	224	-1.2%
(うち大口供給)	(2,384)	(2,485)	(-101)	(-4.0%)	(2,455)	(-2.9%)
ガス販売量合計(百万m ³)	3,795	3,916	-120	-3.1%	3,880	-2.2%
連結ガス販売量	3,812	3,932	-120	-3.0%	3,896	-2.2%

※1 2014年7月29日公表値(2014年4月25日公表の当初計画値から変更してありません)

15.3期第2四半期実績 I

連結:億円	A. 15.3期2Q	B. 14.3期2Q	()内は連単倍率		C. 15.3期 2Q見通し※1	見通し比 (A-C)/C
			前年差 A-B	前年比 (A-B)/B		
売上高	(1.22) 6,976	(1.23) 6,703	+273	+4.1%	7,100	-1.7%
営業利益	(1.31) 538	(1.58) 447	+90	+20.2%	460	+17.0%
経常利益	(1.25) 578	(1.46) 477	+101	+21.3%	485	+19.3%
四半期純利益	(1.12) 475	(1.38) 316	+158	+50.1%	395	+20.3%
SVA	315	237	+77	+32.9%	233	+34.7%
		A. 15.3期2Q	B. 14.3期2Q	前年差 A-B	15.3期 2Q見通し※1	見通し差 A-C
スライド差損益	億円	71	-96	+167	12	+59
原油価格 ※2	\$/bbl	109.5	107.7	+1.8	109.8	-0.3
為替レート	円/\$	103.0	98.9	+4.2	103.6	-0.6
連結子会社数		147	129	+18	---	---

※1 2014年7月29日公表値

※2 15.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を

15.3期第2四半期実績 II

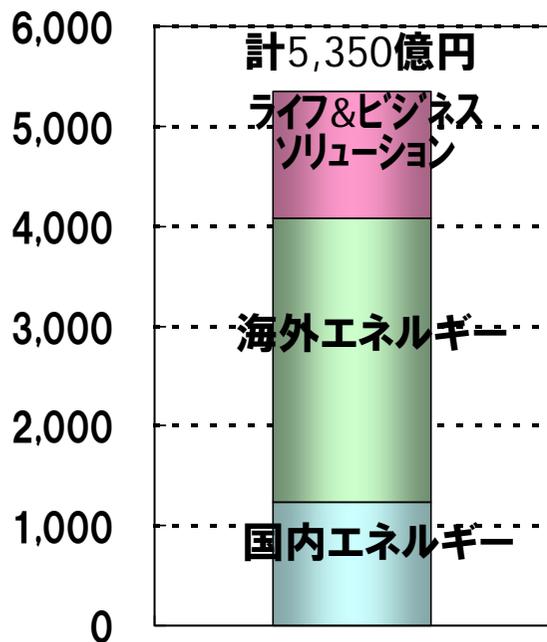
連結:億円	A. 15.3期 2Q末	14.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	16,775	15,937	16,683	+92	固定資産の増加等
自己資本	8,328	7,986	7,989	+338	利益剰余金の増加等
有利子負債	5,683	5,424	5,735	-52	
在籍人員	21,395	20,212	21,250	+145	
自己資本比率	49.6%	50.1%	47.9%	+1.8%	
D/E比率	0.68	0.68	0.72	-0.04	
	A. 15.3期2Q	B. 14.3期2Q		A-B	備考
設備投資	558	570		-11	
減価償却費	428	410		+18	
フリーキャッシュフロー	368	321		+46	税引前利益の増加等
ROA	2.8%	2.0%		+0.8%	
ROE	5.8%	4.1%		+1.7%	
EPS (円/株)	22.8	15.2		+7.6	
BPS (円/株)	400.2	383.6		+16.6	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出 *Design Your Energy* 夢ある明日を

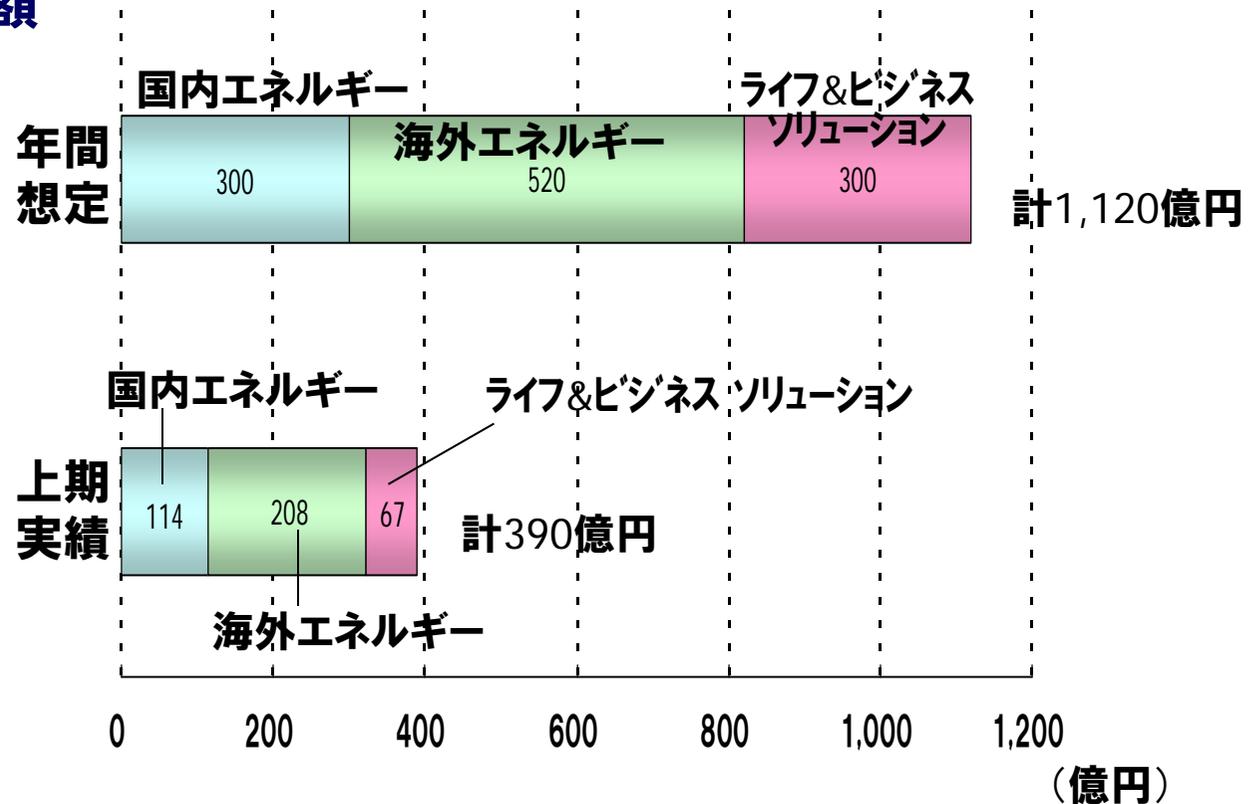
15.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- 上半期は、意思決定済の国内電力事業案件、海外上流事業案件を中心に、計390億円の新規事業拡大投資を実行。
- 10.3期からの累計意思決定済金額は5,350億円(10.3期～21.3期計画額の47%)。

10.3期からの
(億円) 累計意思決定済金額



15.3期の新規事業拡大投資



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

15.3期見通し 修正のポイント

			今回見通し	7/29見通し	差	備考
下期の 前提諸元	原油価格	\$/bbl	105	110	-5	
	為替レート	円/\$	110	105	+5	
個別ガス 販売量 (百万m ³) (45MJ/m ³)	家庭用		(1,418)	(1,418)	(0)	下期は 前回見通しの通り
			2,203	2,215	-12	
	業務用 その他		(3,116)	(3,154)	(-38)	お客さま設備の稼働 減少等を織り込み
収支 (億円)	連結売上高		15,815	16,055	-240	
	ガス粗利		3,310	3,350	-40	ガス販売量の減少、 スライド差益の縮小等
	営雑・附帯利益		387	352	+35	電力事業利益の増加
	労務費・諸経費・ 減価償却費		3,077	3,082	-5	
	関係会社利益		360	375	-15	
	連結営業利益		980	995	-15	
	連結営業外収支		20	5	+15	持分法投資利益の増加等
	連結経常利益		1,000	1,000	±0	

(注)ガス販売量の上段()内は、15.3期下期の数値(内数)

15.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 15.3期 見通し	B. 14.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,162	7,136	+27	+0.4%
	新設工事件数(千件)	106	102	+3	+3.4%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	31.2	31.3	-0.1	-0.2%
	家庭用	2,203	2,198	+5	+0.2%
	商・公・医療用	1,449	1,528	-79	-5.2%
	工業用	4,200	4,329	-129	-3.0%
	業務用計	5,649	5,856	-208	-3.5%
	他ガス事業者向け	478	469	+9	+1.9%
	(うち大口供給)	(4,819)	(4,988)	(-169)	(-3.4%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,330	8,524	-194	-2.3%
連結ガス販売量	8,361	8,554	-194	-2.3%	

15.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 15.3期 見通し	B. 14.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.24) 15,815	(1.24) 15,125	+689	+4.6%
営業利益	(1.58) 980	(1.64) 993	-13	-1.4%
経常利益	(1.48) 1,000	(1.53) 1,060	-60	-5.7%
当期純利益	(1.30) 740	(1.67) 417	+322	+77.3%
SVA ※1	415	30	+385	+1285.6%
スライド差損益 億円	36	-205	+242	
原油価格 ※2 \$/bbl	107.3	110.0	-2.7	
為替レート ※2 円/\$	106.5	100.2	+6.3	

※1 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※2 2014年10月～2015年3月の前提は、原油価格105\$/bbl、為替レート110円/\$

15.3期見通し II

連結:億円	A. 15.3末見通し	B. 14.3末実績	A-B
総資産	17,899	16,683	+1,215
自己資本	8,327	7,989	+337
有利子負債	6,604	5,735	+868
在籍人員	21,448	21,250	+198
自己資本比率	46.5%	47.9%	-1.4%
D/E比率	0.79	0.72	+0.08
	A. 15.3期見通し	B. 14.3期実績	A-B
設備投資	1,280	1,241	+39
減価償却費	853	838	+15
フリーキャッシュフロー	898	1,131	-233
ROA	4.3%	2.6%	+1.7%
ROE	9.1%	5.4%	+3.7%
EPS (円/株)	35.6	20.0	+15.5
BPS (円/株)	400.1	383.9	+16.2

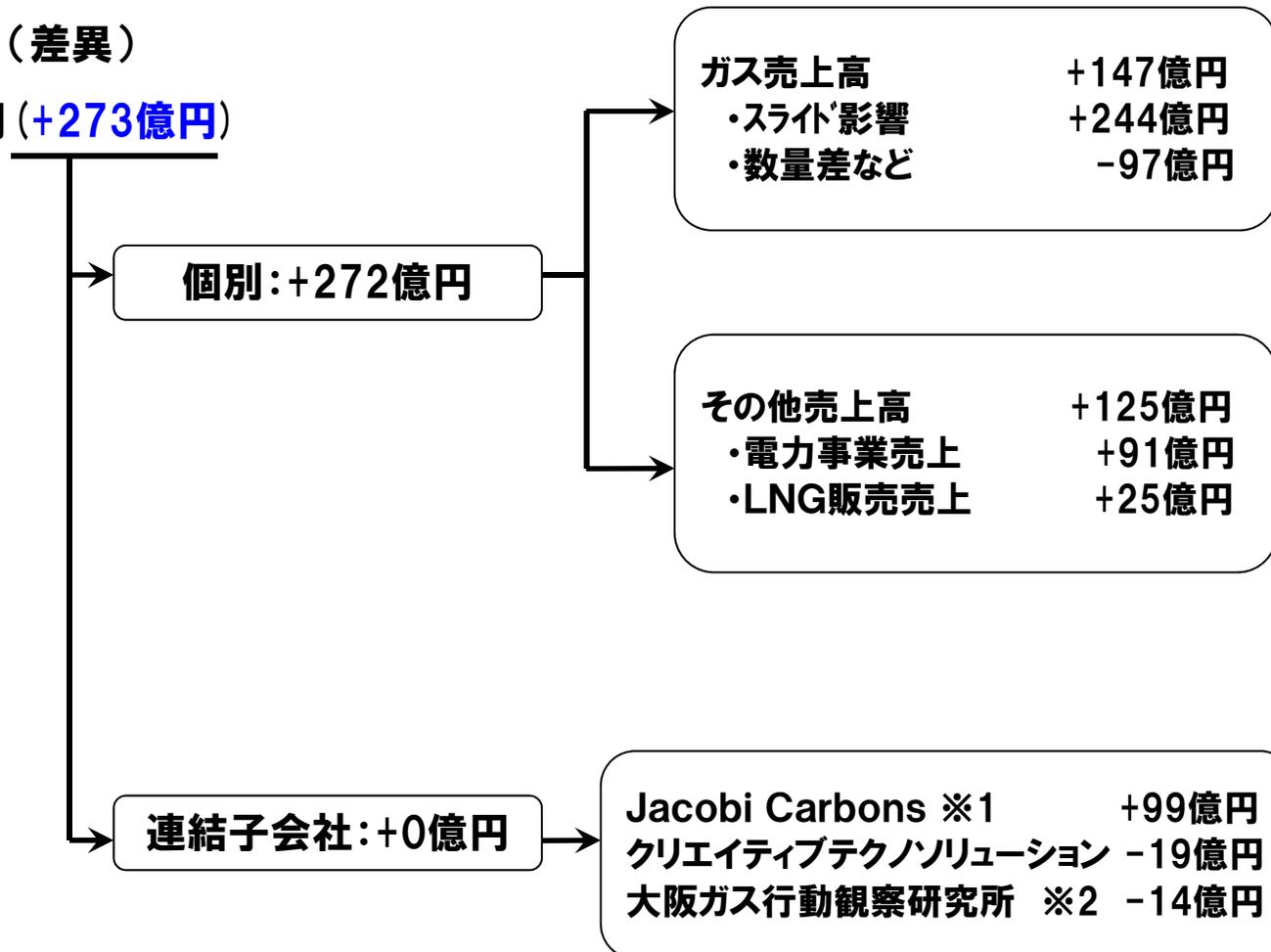
FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出 Design Your Energy 夢ある明日を

II. 参考資料

15.3期第2四半期の売上高差異(対前年同期)

14.3期2Q → 15.3期2Q (差異)

6,703億円 6,976億円 (+273億円)



※1 2014年1月に買収した活性炭事業会社

※2 2014年6月にフリーペーパー事業等を売却し、エルネットより社名変更

15.3期第2四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

14.3期2Q → 15.3期2Q (差異)

477億円

578億円 (+101億円)

個別: +136億円

連結子会社: -34億円

ガス粗利 +121億円
 ・スライド影響 +167億円
 ・数量差など -46億円

費用増加 -42億円
 ・減価償却費増加 -25億円
 ・諸経費増加 -19億円

その他事業利益 +48億円
 ・電力事業利益 +44億円

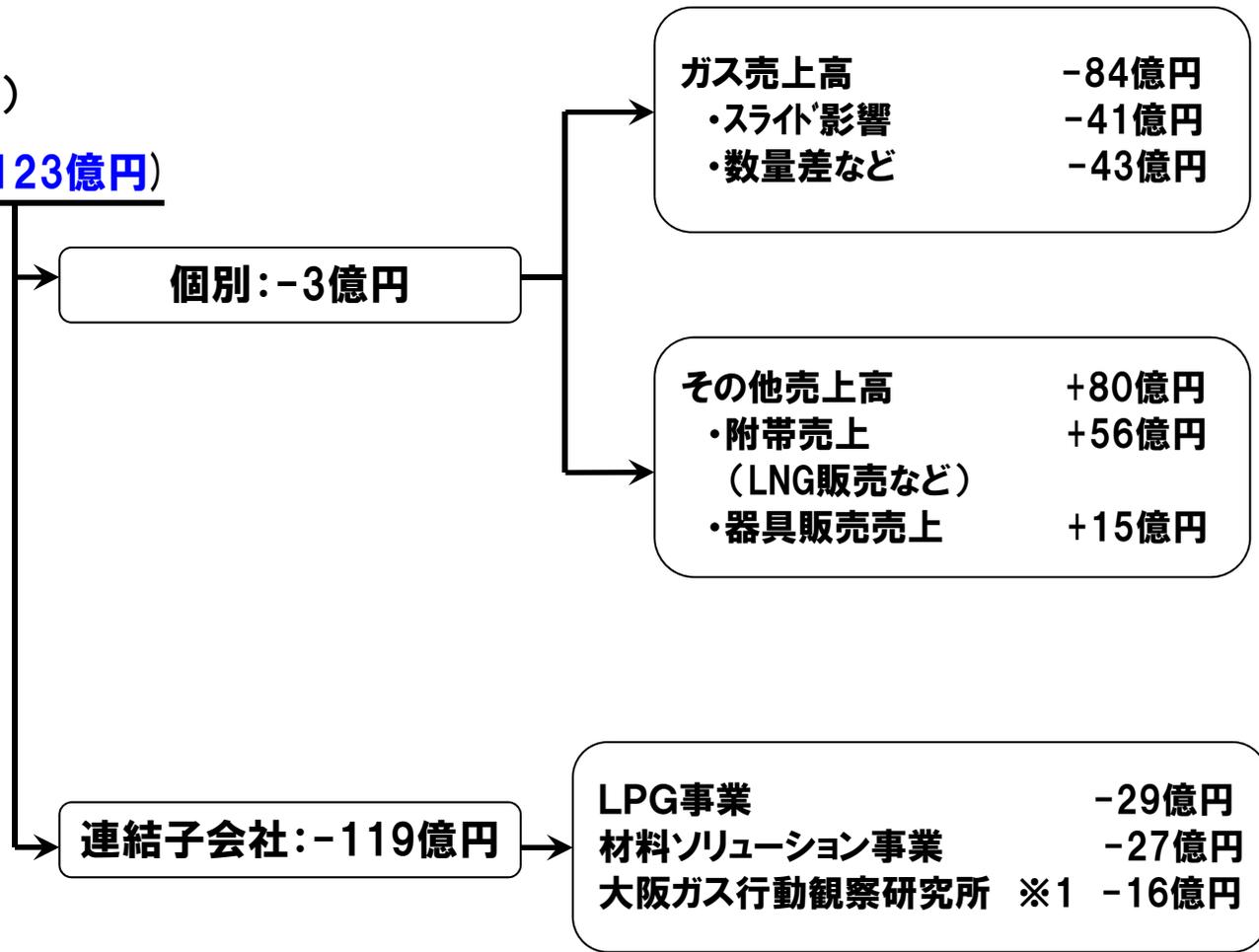
営業外収支 +9億円
 ・受取配当金増等

Jacobi Carbons ※1 -18億円
 大阪ガスインターナショナルトランスポート -15億円
 米国上流事業 +17億円

※1 2014年1月に買収した活性炭事業会社
 のれん償却費、棚卸資産のステップアップ(時価評価に伴う増加)による一時的費用増等を含めた連結利益への影響額を記載

15.3期第2四半期の売上高差異(対見通し)

15.3期 2Q見通し → 15.3期 2Q実績(差異)
 7,100億円 6,976億円 (-123億円)

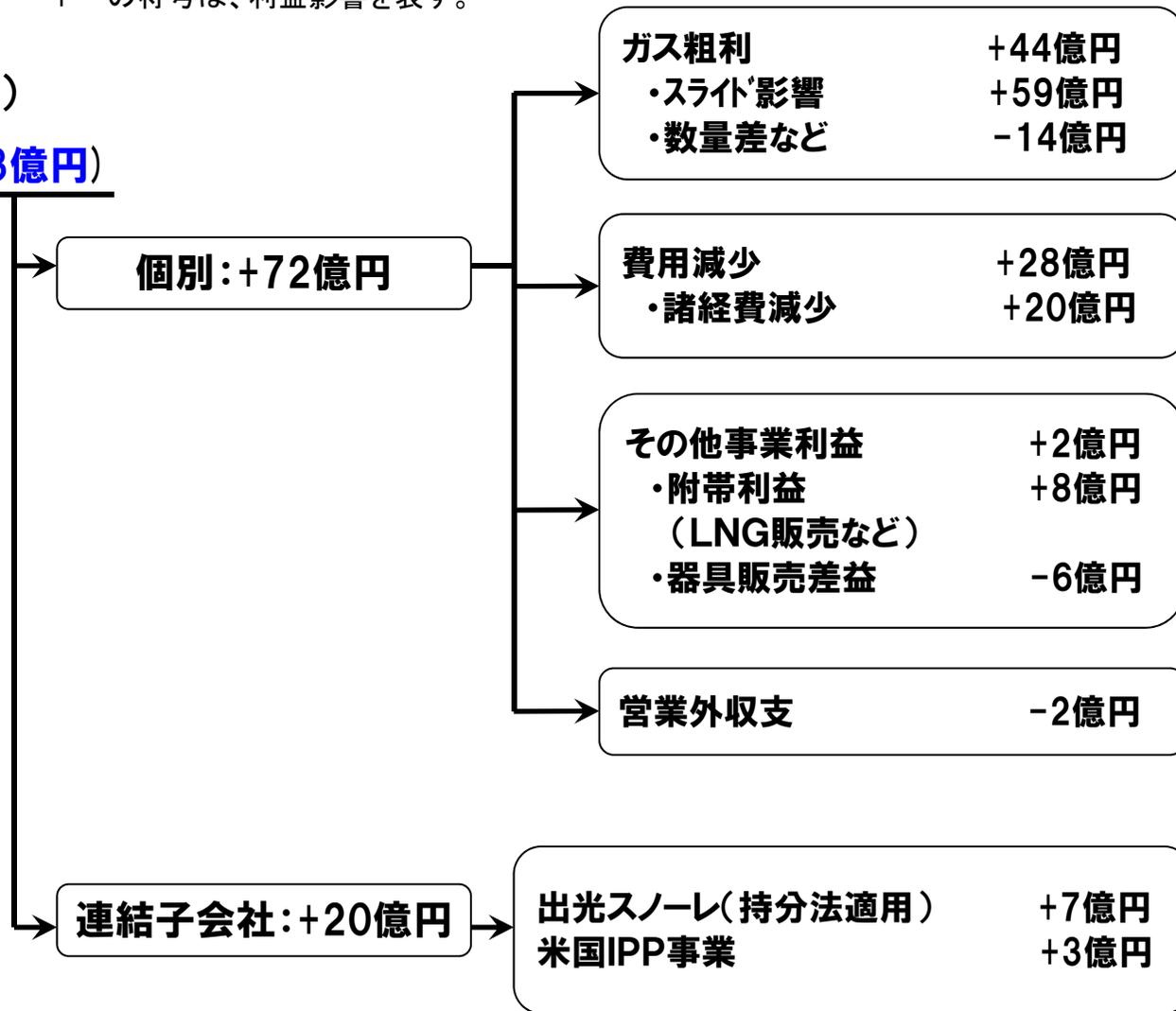


※1 2014年6月にフリーペーパー事業等を売却し、エルネットより社名変更

15.3期第2四半期の経常利益差異(対見通し)

+-の符号は、利益影響を表す。

15.3期
2Q見通し → 15.3期
2Q実績(差異)
485億円 578億円(+93億円)



セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	15.3期 2Q	14.3期 2Q (**)	15.3期 2Q	14.3期 2Q (**)	
ガス	5,103	4,967	212	143	売上:ガス販売単価の上昇 利益:スライド差損が解消
LPG・電力・ その他エネルギー	1,194	1,145	257	220	売上・利益:電力事業等で増加 電力事業利益(***) 14.3 2Q 158億円 15.3 2Q 202億円
海外エネルギー	65	60	49	33	利益:米国上流事業 減価償却費減
ライフ&ビジネス ソリューション	933	868	53	79	売上・利益:Jacobi Carbons新規連結 の影響(一時的費用増等により減益)
消去又は全社	-320	-339	12	13	
連結	6,976	6,703	586	489	

<再生可能エネルギー事業の取扱い>

14.3期まで:「環境・非エネルギーセグメント」→15.3期以降:事業内容に応じ、「LPG・電力・その他エネルギーセグメント」「海外エネルギーセグメント」に移管

<セグメント名称の変更>

15.3期以降:「環境・非エネルギーセグメント」の名称を「ライフ&ビジネス ソリューションセグメント」に変更

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益、(**)14.3期実績を上記新基準に組み替えた値、(***)電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示

Design Your Energy 夢ある明日を

セグメント別見通し

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	15.3期 見通し	14.3期 実績 (**)	15.3期 見通し	14.3期 実績 (**)	
ガス	11,400	11,195	345	320	売上:ガス販売単価の上昇 利益:スライド差損が解消
LPG・電力・ その他エネルギー	3,010	2,610	420	453	売上:電力事業、LNG販売等で増加 利益:電力事業、LPG事業等で減少
海外エネルギー	170	133	95	82	利益:米国上流事業 減価償却費減
ライフ&ビジネス ソリューション	2,120	1,965	170	188	売上・利益:Jacobi Carbons新規連結 の影響(一時的費用増等により減益)
消去又は全社	-885	-779	20	27	
連結	15,815	15,125	1,050	1,072	

<再生可能エネルギー事業の取扱い>

14.3期まで:「環境・非エネルギーセグメント」→15.3期以降:事業内容に応じ、「LPG・電力・その他エネルギーセグメント」「海外エネルギーセグメント」に移管

<セグメント名称の変更>

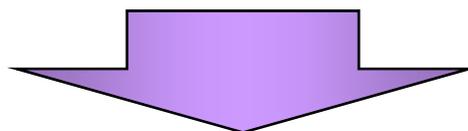
15.3期以降:「環境・非エネルギーセグメント」の名称を「ライフ&ビジネス ソリューションセグメント」に変更

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益、(**)14.3期実績を上記新基準に組み替えた値

家庭用ガス販売

15.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.5%	
気水温影響	+0.4%	平均気温23.0度(対前期-0.7度)
その他	-1.5%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-0.6%	



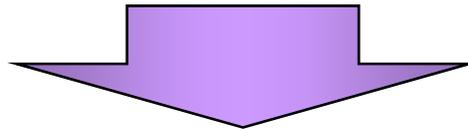
15.3期通期見通し

- 上期は、見通しを12百万m³下回った。
- 下期は、見通し通りで想定。
- 通期では、見通しを12百万m³下回り、対前期5百万m³増の2,203百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

15.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	空調需要を中心とした新規開拓
気温影響など	-4.4%	夏場の低気温による冷房需要の減少
その他	-3.2%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-5.7%	



15.3期通期見通し

- 上期は、見通しを10百万m³下回った。
- 下期は、見通しを2百万m³下回ると想定。
- 通期では、見通しを12百万m³下回り、対前期79百万m³減の1,449百万m³と想定。

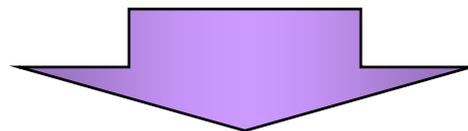
工業用ガス販売

15.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.2%	他燃料からのガス転換等
稼動増減 など	-4.6%	一部のIPPの自社電源化、 お客さま設備の稼動減少等
合計	-3.4%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	160	95.1%
金属	504	102.3%
ガラス	153	88.4%
化学	608	97.3%
食品	257	99.8%



15.3期通期見通し

- 上期は見通しを60百万m³下回った。
- 下期も、上期実績を踏まえた下ぶれ(-37百万m³)を織り込み、通期では、見通しを97百万m³下回り、対前期129百万m³減の4,200百万m³と想定。

15.3期月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期累計
家庭用		99.9	91.5	101.6	99.8	105.4	108.8	99.4
商・公・医療用		98.0	95.0	95.8	94.9	93.5	90.7	94.3
工業用		97.4	97.4	101.6	93.3	94.7	95.8	96.6
業 種 別	機械	92.3	93.3	104.3	92.1	92.5	97.4	95.1
	金属	102.3	101.7	110.4	100.8	100.2	98.8	102.3
	ガラス	90.9	89.6	87.2	84.0	90.1	88.9	88.4
	化学	95.6	97.3	100.7	94.0	100.2	96.6	97.3
	食品	99.0	99.4	102.5	97.4	98.3	102.5	99.8
他ガス事業者向け		91.5	97.3	121.5	94.3	99.0	103.6	100.5
計		98.0	95.3	101.6	94.6	95.9	96.5	96.9

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度3Q以降の経常利益は9億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度3Q以降の経常利益は14億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間7億円変動する可能性がある。